

■アートセンター、アートカウンスルについて ほか

項 目	発 言 要 旨
<p><b>1 アートセンターに望むこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの公共施設は音楽や演劇などをやっているハコモノという印象で、なにか催事をやっているときにしか足を運ばない場所。ちえりあの「ご近所先生」のようなものやアートの展覧会、それにアーティストの見本市などが頻繁に行なわれているとアーティストの活躍の場や情報発信ができるほか、市民にも足を運ぶ機会ができる。</li> <li>○ アートセンター内で行なわれる催事の裏方体験などもできたらおもしろい。</li> <li>○ アーティストが求めることは活動の場と公演の集客、そして活動の周知</li> <li>○ 市民が求めることは優れた文化・芸術に触れることと市内の文化・芸術の情報を得ること。</li> <li>○ アートセンターに人が集い(催事以外のときも)、そこから人材や情報が発信されることでアートセンターが文化・芸術の拠点となれば札幌市(行政)のメリットにもなる。</li> <li>○ 市民だけではなくアーティストにとっても本番とリハーサルのときにしか使わない施設がほとんど。アートセンターは練習もできるような施設であってほしい。</li> <li>○ アートセンターに行けば常に新しい情報を得られるようにするべき。</li> <li>○ チラシやインターネットだけではなく、見本市やロビーコンサートのような実際に目に見える形での市民へのアピールもあればよい。</li> <li>○ ライブラリー:画集、文献、映像を閲覧できる。</li> <li>○ 広い市民目線で、このようなものが良いのではないかと勧めることができる人がいたらよい。</li> <li>○ レストランやカフェ:道内食材や作家にちなんだ料理と、音楽、演劇、芸術作品を楽しめる。</li> <li>○ 学生のインターン場としてのメイクやファッション</li> <li>○ 単に習い事や一日で終わるワークショップだけではなく、ここでしか出来ない体験が出来る(例えば、絵画やダンス、書道などは習い事として定着しているが、造園や映像の分野など)。</li> <li>○ 学生の進路相談</li> <li>○ 国内外のアーティスト・イン・レジデンスやインターンの受け入れ</li> <li>○ 常にアーティストが居て、相談できる環境</li> <li>○ 毎日、イベントやワークショップを開催するのではなく、土日は若者、子ども向け、平日昼間は主婦向け、夜間はお父さん世代向けと、時間、ターゲットを絞る。</li> <li>○ アートセンターをつくる基本的なこととして、次世代の方への教育の場というのは絶対的なことだと思う。それをコーディネートできる人と同時に、次世代の人たちが体験できる場というのが大切だ。</li> <li>○ 演劇にしてもオペラにしても、ミュージカルにしても、東京と比べてしまうと、質の高さと言う意味では、札幌は少し低い。もっと切磋琢磨して、良いものは良いのだということをきちんと受け入れて、それを次世代に繋げられるようなシステムをつくるのが大事。</li> <li>○ 良いものはたくさんあるのだが、横のつながりが無い。固定観念に縛られずに、これも良いよねとやれるだけの心の余裕をリーダーの方が持ってほしい。</li> <li>○ アートセンターは点のように存在するものではないと思う。常に10区と関係があると思う。</li> <li>○ アートセンターは組織として市民に開かれたものであってほしいし、建物としても利用しやすいものであってほしい。</li> <li>○ アートセンターにも、内と外の間地点のような部分があると市民も利用しやすい。完全に閉じたオフィスではなく、中間のようなものがあるといい。</li> <li>○ 何となく足を踏み入れにくいものは嫌だ。どうやったら、気軽に人が入れるか。かつ、アートセンターはこのようなものと周知できるか。アートセンターの人たちが行く、アートセンターで行う、アート関連のイベントがあれば良いと思う。</li> <li>○ アートセンターが街のど真ん中にあるということはすごいことだ。どこの街にもそんなものはないのではないかと。街の中心にあるという意味が大きい。</li> <li>○ 複合施設の在り方が、行きたくないものになっている。お金なくてもお茶一杯で3時間くらい楽しかった。現代写真を観たとか、ポスターがうまかったの、演劇を観てみたいと思ったというような、そういう複合施設だったらよい。</li> <li>○ 市長部局と教育委員会部局をガラガラポン的にやってもよいと思う。教育委員会部局と市長部局の上に、アーツカウンスル的なものを持てば、それは全く新しい札幌スタイルだ。</li> <li>○ 敷居が低いというか、入りやすいと良い。街中にどうせつくるのなら、待ち合わせ場所に使ってほしい。そこから始めても良いのではないかと。彫刻を置いてみたり、大きなビジョンを置いたり、あそこで待ち合わせねという感じで、若い子、カップル、家族連れに近くなれば、ちょっと時間があるから中に入ってみようかとなる。お茶でも飲むか、となる。そこに絵があったり、映像があったり、演劇やっていたりというのが良い。</li> <li>○ 冬こそ、ここが格好良い場所になればよい。</li> <li>○ 特に冬は、地下鉄一本で行けるアートセンターが魅力ある。</li> <li>○ 観光の話と関わるのだが、場所の問題は大きくて、場所は良いところにならなければいけない。ただ、人がいるようなところにつくるということではなくて、今後行ってほしいところ、ちょっとはずれたところにも作ることも大事なのではないかと思う。(傍聴者)</li> <li>○ 例えばアートのものは、大通りにつくって、商業的なものは札幌駅の方へつくる。アートのものはちょっとはずして西11丁目につくるとか、全体の中で考えていただいた方がよい。(傍聴者)</li> </ul>
<p><b>2 アートセンターの必要性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そもそもアートセンターがあるべきなのか。それとも、それがあった方が、札幌ひいては北海道の文化芸術が発展していくと思うし、あるべきだから作っていくのか、作って良いものだという意見にしていくことも含めてつくっていくのか、どう違うのかなと思った。(傍聴者)</li> <li>○ アートセンターを見たときに、カフェとか図書館があれば良いとは思う。定着しなくてはならないのは、そこで何をするかというソフトであろう。</li> <li>○ アートセンターについては、15年くらい前から議論があるので、つつい、当たり前になってしまっている部分があるが、アートセンターはいるのかということも絶えず検証していかなければならない。</li> </ul>

3	アートセンターと札幌市芸術文化財団との関係	○ アートセンターと芸術文化財団との関係は、文化部でもまだきちんと整理しきれていない。アートセンターの運営を誰が行うのかについては、まだ検討中。ただ、財団が札幌市の芸術文化施策、事業の中核を担っていることには変わりはないので、何の関係も生じないことはあり得ない。
4	アーツカウンシル	<p>○ これまであいまいだったところをきちんと表に出して、お金のことも事業評価もきちんとしていこうということ。定義はあるようでないので、いろいろ選べる。札幌型のアーツカウンシルを行おうとすれば、いくらでも設計できる。</p> <p>○ 現行の芸術文化基本計画の中に、アート評議会についての記述がある。アート評議会は、アートセンターの上部組織と位置付けられており、音楽、美術、演劇、メディアアートなどさまざまな分野のアーティストをはじめ、市民、企業、学識経験者等で構成されるアート評議会を設置して、アートセンターの運営方針の決定とか、文化行政全般に対する評価や提言を行うことを想定し、検討を進めることにしている。</p> <p>○ アーツカウンシルをどうするかということと、アートセンターをどうするかということはコインの裏表の関係にあるので、アーツカウンシルとセットにしてアートセンターについて考えて行く。</p> <p>○ アーツカウンシル的なものは、特にお金の面で、必要性が議論される。今ある札幌市の芸術文化的な事業への出資が適切なのか、効果があるのかということ、例えばPMF、あるいは今度はじまるトリエンナーレ、その他いろいろある芸術文化的な事業に関する出資の状況を、包括的に、公的に、かつオープンな形で、評価をしている機関があるようでない。</p> <p>○ ちえりあの所管は市長部局ではなく、教育委員会だ。しかし、市民から見れば、同じ文化関係のハードでありソフトだ。裂け目を生じてはいけない。やはり市民の税金が関与しているのであれば、わけへだてなく、包括的に評価しなければいけない。</p>
5	アーツカウンシルと助成金	<p>○ 助成金を、もらった者得で、もらえなかった者が損するみたいな話ばかりではなく、どう有効にこの国のお金を使うべきかという議論のような、そうじゃない根本的な話をした方が良いのではないかと、この国の演劇の将来とか、演劇だけではなく文化全体のために、そういうお金を財政が厳しい中で何とか作ろうとしてる人たちがいるとしたら、どういところで投下すればよいのか根本的に考える。そういう議論の場が必要なのではないかと。</p> <p>○ 上から、この助成金を渡すから、どう分配するのか判断してということだけを頼まれるのは、アーツカウンシルではないような気がする。助成金の使われ方が的確なのか見張っている場所だとすると、アートではないような気がする。</p> <p>○ アートカウンシルは、助成金が適切に使われているかどうかを監視するということではなく、真に助成するに値する価値のあるものを選ぶということだと思う。専門家が集まって、まずは選んで、やってみたら、実際にその効果を検証して、あまり芸術性が高くないとすれば次回は助成金を与えるには適さない、ある意味では厳しい競争、質を求めるということだ。</p> <p>○ 助成金を与えたりすることに関しては、アウトソーシングでよい。そこに、5人、6人専門家がいても、結局現場のことが良く分からない。だから、余り細かいことは決めさせないで、おおざっぱに方向を決めてもらう。助成金事業については、別の機関をつくって、英米の助成金制度と同じで、完全にオープンにすればよいだけだと思う。助成金を決定する人にどのような人を充てるのか、その当て方のシステムをきちんと作るということだと思う。</p> <p>○ アートカウンシルを作ったときに、教育委員会とか芸術文化財団とかとの関係がある。つくるときは、芸術文化の部局でつくるのだろうが、最終的にはアートカウンシルが市長と一緒に方向を決めて、その下で動くという形にしないと、ばらばらになって来る気がする。それが決まってくれば、助成金に関しても重点が決まってくる。</p> <p>○ アートカウンシルのトップの人たちには、お金を集めてもらう仕事を付加するべきだと思う。</p> <p>○ 今の一番の問題は、プロだという人が、今必要な施策について知らないことが大きい。そこが一番重要な気がする。最新の情報を持っている人たちなら、安い金で仕事を回すことができる。</p> <p>○ アーツカウンシルは自分の理念と、体力をもって主体的に行動するものであろう。</p>
6	アートセンター・アーツカウンシルの運営	<p>○ アーツカウンシルは、お金の分配よりもお金を稼ぐ方法を考える。運営するためのマネジメント機能を高めて行かないと、札幌方式は、官からのお金というよりは自活するための、支持組織をつくっていかないとやっていけないのかなと思う。</p> <p>○ アーツカウンシルが自活できるシステムを作っていくとか、そういう人たちを集めていかないと、組織・建物を作っても立ち行かないだろう。</p> <p>○ 誰が、例えばアートセンターとか、アーツカウンシルとかを最終的に回すのか。</p> <p>○ 今度のアートセンターは、アートボランティアとかアートソムリエの人とか、アーティストでない人たちに回してもらったり応援してもらおうということが前提で、出来ている。</p> <p>○ 市としては、いろいろなことを行う形を作りたいとは思いますが、市役所の職員が専門家だというわけではないから、システムは作るが、それをどういように回していくかについては、自分たちが関与するわけではない。管理はできるが、中味の部分は、依然として誰が行うのかという点が宙に浮かんでいる。</p> <p>○ アートセンターのしくみや機構をデッサンしていくことは、難しい。人材のキャスティングをどこかでやらなければならない。そこに、芸術系の人か芸術監督的人材か。全くアートのことは知らないが、辣腕家をビジネス界からヘッドハンティングするのか、そんなことを含めて、人事に関するカウンシルも必要になってくる。いろいろな考え方はあるので、頭を柔らかくして考えて良いと思う。それが札幌方式だと思う。</p> <p>○ 助成金をアウトソーシングするとしても、全体としてアートのことが分かる人がいなければならない。かといって、アートについてだけ分かっているだけではいけない。さきほどの、観光や札幌全体のことも分かっている、それでアーツカウンシルで何かをするといったときに、論理的に落とし込んでいける人が絶対に必要だ。札幌は札幌の人材を自分たちで作っていかなければならない。</p>
7	ホール	○ ニトリ文化ホールクラスのホールができたときに、一般市民がどのくらい使えるだろうか。
8	既存事業の応援	○ 複合交流施設の中にアートセンターを置くのは良いが、今行われている芸術活動への応援の方向性はどうか。
9	文化政策と観光	<p>○ 今後の札幌の文化政策を考えるときに、韓国や台湾や中国の人たちは、絶対巻き込むべきだ。観光との良いコラボレーションができるということは非常に大きいと思う。それに何が必要かというと、言葉だ。韓国や中国では、日本語で話しかけてくるが、日本へ来ると、韓国語や中国語できちんと対応してくれる人はいない。今からでも、教育大や北大の人たちに市がお金を出してもよいので、語学をきちん勉強させるということが非常に大きい(傍聴者)。</p> <p>○ 演劇の話で、札幌は余りレベルが高くない、東京に比べてレベルが高くないということは、まず考えない方が良く思う。自分たちのやりたいことをしっかりやるために、どういうシステムを組んでいくのかということと、あと、東京を見ないで、国際的な形にしていくべきだ。方向はアジアを考えて行くべきではないかと思う。(傍聴者)</p>